

エリア全体

テーマ
OPEN COLLABORATION CAMP - まちは出会いの場 -

当日の内容

行政による社会実験の場づくり (3プログラム)

- QURUWA上でのフラッグの設置
- QURUWAを回遊するボンネットバスの運行
- レンタルサイクルの実施



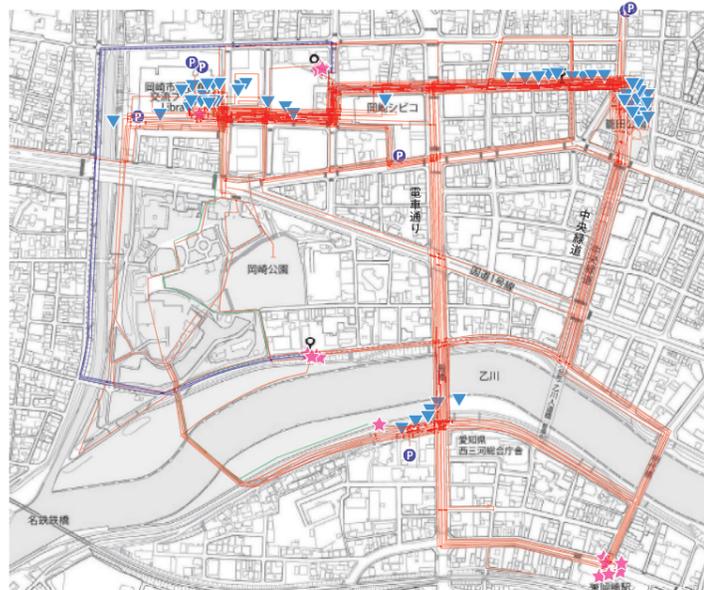
民間によるプログラム実施 (3プログラム)

- 高校生による突撃インタビュー
- 「QURUWAの1日」ショートムービー撮影
- アウトドアオフィス用のテントの設置

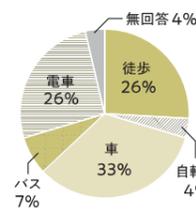
パーソントリップ調査 (回遊性の検証結果)

移動経路を地図上に重ねたもの (回答者数: 54人 / 約3,000人)

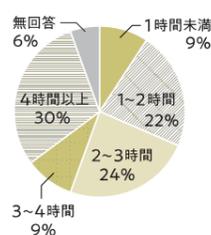
- 徒歩
- 車
- 自転車
- バス
- 駐車場
- 乗り換えポイント
- 良かった立ち寄りポイント



来街手段



滞在時間



- QURUWA上での回遊動線が形成された。
- 南北の動線は、中央緑道と電車通りに分かれているが、人道橋整備により変わるものと思われる。
- りぶら前、連尺通り、籠田公園のように民間活用したプログラムを実施したところでは、特に回遊が見られたことから、QURUWA上の拠点などで公民連携の取り組みを行うことは、回遊の実現に有効と考えられる。

まちづくり専門家のコメント

【公共空間活用の可能性】

- これからまちを変えていくための社会実験に対して、100人以上の市民が参加してプログラムを実施してくれたことが成功と言える。またその多くがまた次回も行いたいと言っている。雨なのに来場者も多く、関心の高さがうかがえた。
- 女性の参加が多かったのが特徴的。自分たちで暮らしをつくるという意欲あるママさんが出店し、それをパパがサポートする、という姿が公共空間で表れていたことも成果と言える。
- りぶら前や道路は、使いこなすことによって民間にとってもメリットがあり、まちにとっても魅力が向上することが検証できたが、いざ民間が使いたくても窓口がないのが現状。公共空間を使いやすい環境をつくるのが課題。

- 良質なオフィス環境や教育環境を求めてレベルの高い、所得の高い人が集まり、そうした人たちの事業がうまくいくと法人税も上がる。こうした効果を狙い、「岡崎のまちなかが変わりつつある」ということの情報発信、シティブロモーションをすることが極めて重要。

【りぶらからのにじみ出しについての補足】

- りぶらはとても良い施設だが、外に対して開かれていないの唯一の欠陥。中には人がいるが、そのことが外からわからない。
- りぶらエントランスがそうだったように、建物の外に人がにじみ出ていると、「にぎわっている」風景が生まれる。建物のオープンスペース側に人がたむろしているかどうか、まちににぎわいを生んでいるかを定める。そこを意識して使い方や建物の開き方を考えるべき。

まちづくり専門家

清水義次氏 [3331アーツ千代田代表]、藤村龍至氏 [東京藝術大学美術学部 建築科准教授]、泉英明氏 [北浜水辺協議会理事]、長谷川浩己氏 [オンサイト計画設計事務所代表取締役]、西村浩氏 [(株)リノベリング取締役]

データで見る MeguruQuruwa

発行日: 平成30年3月21日 発行: 岡崎市都市整備部乙川リバーフロント推進課 (TEL: 0564-23-6490)、編集: NPO法人岡崎まち育てセンター

QURUWAとは

名鉄東岡崎駅、(仮称)乙川人道橋、籠田公園、りぶら、岡崎城など公共空間の各拠点を結ぶ主要回遊動線 (主要なまちめぐりルート)。かつての岡崎城跡の「総曲輪 (そうぐるわ)」に重なるところがあること、動線が「Q」の字に見えることから、「QURUWA (くるわ)」と表記しています。

RESULT REPORT



社会実験 MeguruQuruwa の概要

MeguruQuruwaは、主要回遊動線QURUWA上の公共空間を、民間事業者・市民等が活用する公民連携プログラムによって、QURUWAの回遊が生まれるかどうかを検証する社会実験です。実施に際して、市は、公共空間の管理者と調整し許可等を得るとともに、交通規制・安全対策、看板・人工芝の設備などの設えを行うことで、民間事業者等の利活用の場づくりを担いました。そして、この場において公募に応じた民間事業者・市民等が、自らやりたいこと (出店・ワークショップ等) を展開しました。

開催日 **2017年10月28日(土)**

当日の天気 実施プログラム数 **36**

来場者数 **約3,000人**

社会実験とは	イベント	社会実験
社会実験は、一時的な非日常をつくるイベントとは異なり、持続的な日常を目指して行われるものです。そのため、集客数や来場者満足度で評価をするというよりは、社会実験の運営側の満足度や今後の持続性などで評価をします。	非日常・一時的	日常的・持続的
	集客数・盛り上がり	持続性・ライフスタイルの実現
	来場者の満足度	運営の体制・仕組み持続性 (運営側の評価)

社会実験 MeguruQuruwa の検証項目

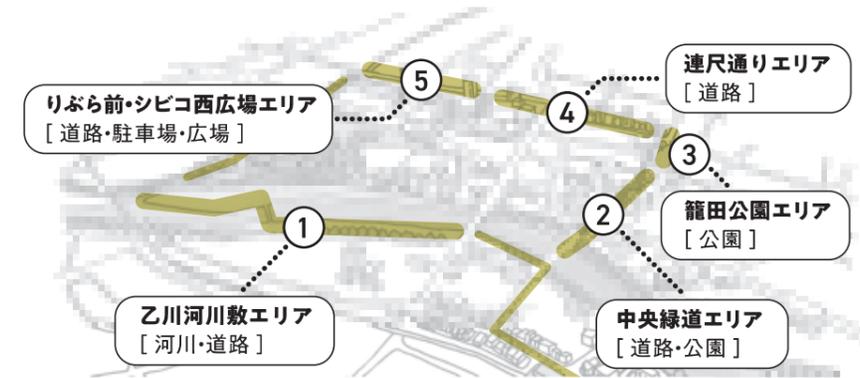
- 公共空間の新しい使い方**
エリアの価値を高めるために、道路や公園、河川といった公共空間をどのように使ったら魅力的になるのか、民間事業者・市民 (プログラム実施者) による「将来、こんな暮らしを実現したい」という想い・アイデアを実現し、その効果を検証する。
- りぶらからのにじみ出し**
1年に145万人 (1日4~5,000人) の来館者を、りぶらからまちなかへにじみ出させることで、回遊の起点とする。そのために、周辺の公共空間を使って広場のような場所をつくり、にじみ出しの効果を検証する。
- 回遊性の検証**
どうしたら「歩いて楽しく、自転車で回れて、車でも来やすいまち」が実現できるか、主要回遊動線QURUWA上の公共空間の新しい使い方や、回遊バスやシェアサイクルの実施を通じて、その効果を検証する。

実施調査

調査種別	概要	検証項目
① プログラム実施者	公共空間 (道路、公園、広場など) を使いこなす意義や使い勝手を問う	① ②
② 来場者アンケート調査	エリアごとに社会実験のねらいに対する評価を検証する	① ② ③
③ 来場者パーソントリップ調査	来街手段、移動手段、回遊経路 (どこから来て、どこを通過してどこに行ったか)	① ② ③
④ 住民アンケート調査	近隣への影響や住民の評価を検証する (乙川・りぶらで実施)	①

実施エリアについて

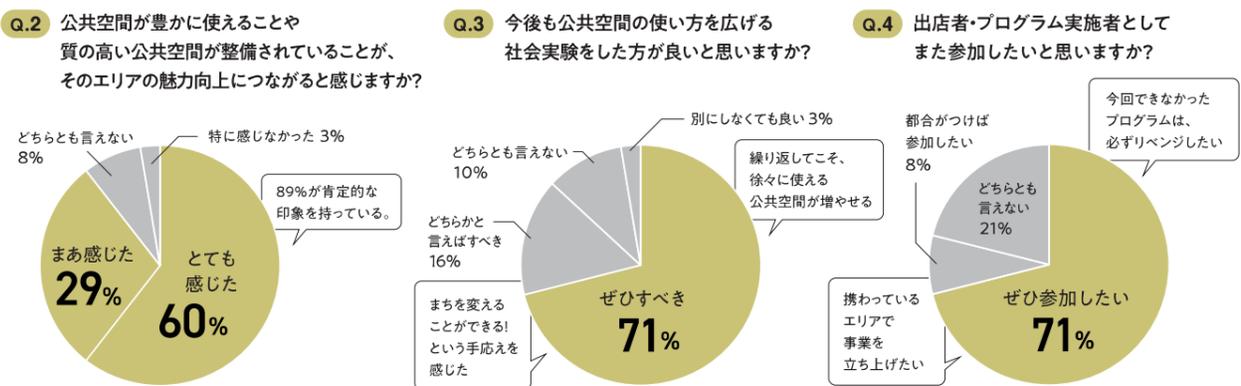
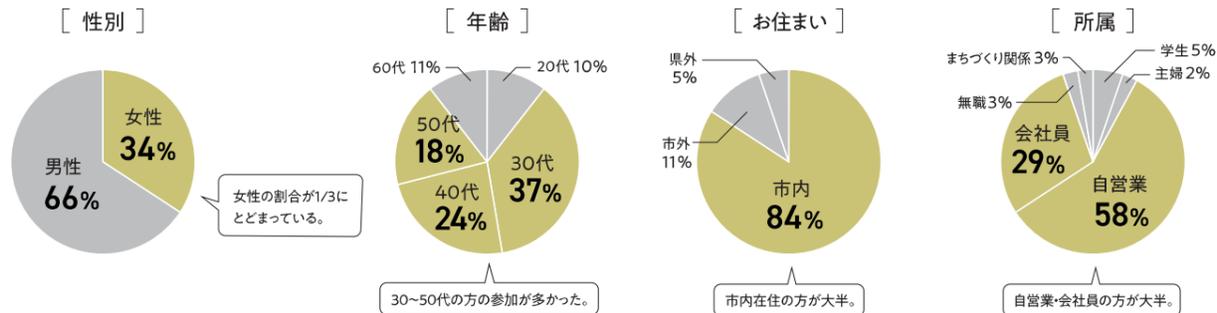
約3kmの主要回遊動線QURUWA上に5つのエリア (1.乙川河川敷、2.中央緑道、3.籠田公園、4.連尺通り、5.りぶら前・シビコ西広場) を設定し、各エリアで上記検証項目に基づくねらいを定め、プログラムを実施した (延べ公共空間実験面積12.5ha)。当初計画された55のプログラムのうち、雨天のため19が中止となり、36のプログラムが実施された。



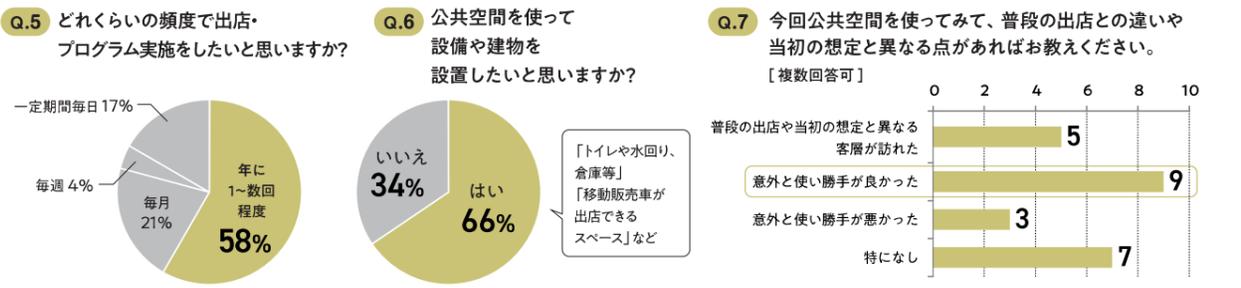
[] は使用した公共空間

プログラム実施者アンケートより
回答者数
36

Q.1 社会実験のプログラムを実施したのはどんな人？
自分たちの暮らしをつくるという取り組みの趣旨に賛同した、現役世代の参加が多い。



エリアの魅力向上のために、公共空間を豊かに使えることが有効であると言える。
多くのプログラム実施者に社会実験の継続が望まれている。
多くのプログラム実施者が次なる社会実験への参加の意思を表明している。



Q.8 当日印象の良かったことや楽しかったこと、感想などをご自由にご記入ください。

乙川河川敷
雨の日のイベントは失敗みたいな空気が流れるけれど雨も日常である事を再確認できた良い社会実験だった / 県外のお客様が乙川エリアを中心に様々なワークを体験し焚き火を囲んだり、テント泊をされたこと。乙川にはたくさんの魅力があるので、トイレや施設を整えてもらえらるともっと活用が広がるはず。

籠田公園
雨でも気にならず居心地のいい空間だった。特別な日常というより日々の中に馴染んだ素敵な空間になっていると思いました。 / 飲食物などの多くの出店に対して、日常生活に根付かせたい出し物が特徴的だった。 / 雨にもかかわらず出店された方々のエネルギーを感じた。大きなテント内に集中して出店していたので賑わい活気が溢れた雰囲気は醸し出されていました。ただ、今後民間で企画する時に、大きなテント等が予算的に借りられない等、実現するには難しい問題があると思いました。

連尺通り
あいにくの天候にもかかわらず、思った以上にたくさんの方が歩かれていた。また、家族連れやカップルのほか、おひとりでも楽しまれている方も意外と多く、様々な方が多様な楽しみ方をされている様子が、とても魅力的で良いと思った。

りぶら前・シビコ西広場
車がメインに通った場所が、人がメインになるだけで、まちの風景が楽しいものに変ったことに驚きました。 / 通常来館者がチラシを持っていくところを近くで見ているわけではないので、目の前で座っているとチラシの内容について質問されたりしやすいことが分かりました。 / 悪天候にもかかわらず、利用者が多く、りぶらとシビコをつなぐ人の流れが多少はできたこと。天候が良ければ、もっと目に見えるような人の流れをつくれたのでは?と手応えを感じた。 / りぶらにいましたが、1日を通してたくさんの方が訪れる場所であるということを再認識した。当日は雨で残念でしたが、この人たちが外に出て、さらには連尺通り方面に歩いて行けば、そこには大きな賑わいが生まれそうな、そんなポテンシャルを感じました。

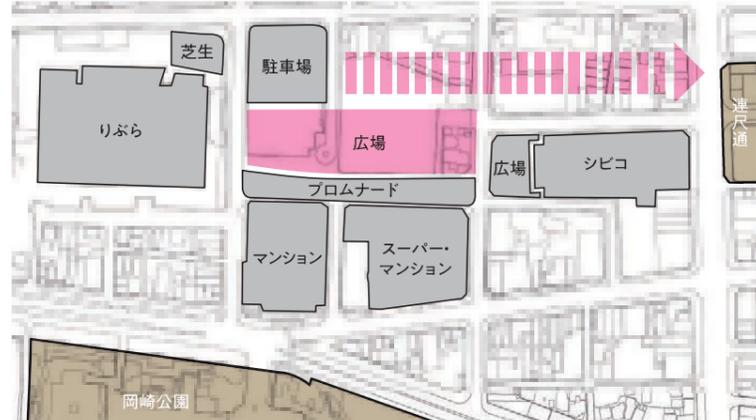
⑤ りぶら前・シビコ西広場エリア

テーマ
りぶらの前に広場をつくらう

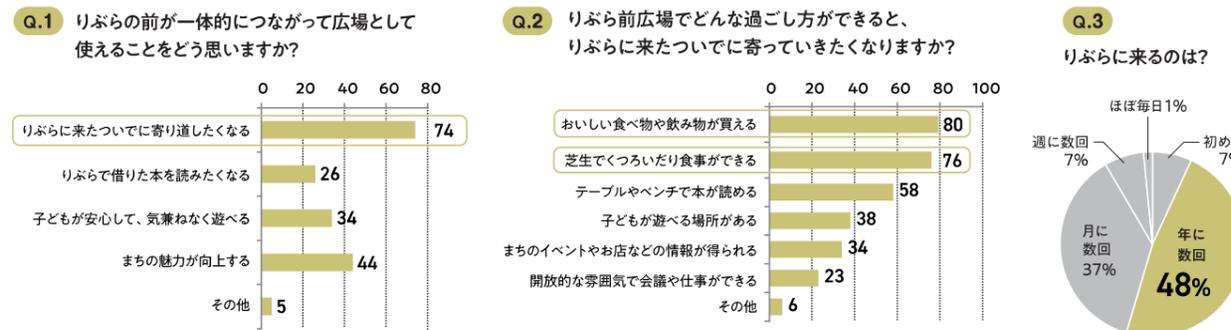


ねらいと結果
りぶら周辺の公共空間を活用して、1日平均4~5,000人の来館者がまちへにじみ出し、シビコや連尺通りへの流れが生まれるかを検証した。りぶらエントランスから、プロムナード、シビコ西広場に魅力的なコンテンツを設置することで、継続的ににじみ出しを創出することが可能であることが実証された。

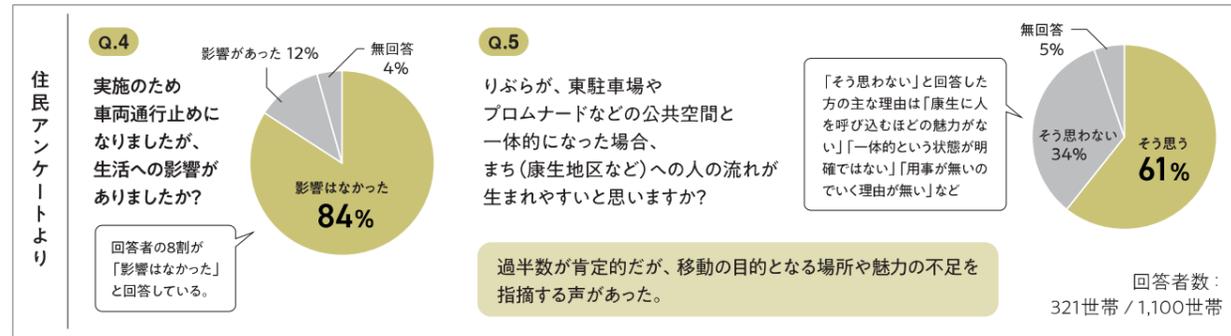
りぶらおよび周辺の公共空間の活用イメージ:岡崎市中心市街地活性化拠点整備基本計画(H15年度)より作成



- 当日の内容**
- 行政による社会実験の場づくり**
- りぶら東側の道路と東駐車場1、シビコにつながるプロムナードを芝生広場化し、休憩用のテントやテーブルを設置
- 民間によるプログラム実施 (13プログラム)**
- 物販やワークショップのブース(テント、テーブル等の設置)、歩きながら楽しめる屋外ギャラリー
 - パン屋やお菓子屋など、店舗用の什器を設置し、こだわりの飲食の場を提供
 - 本との出会いを演出する展示(りぶら館内)、周りの商店と連携したマーケット(シビコ西広場)



りぶら前を広場にする事で寄り道するきっかけをつくる事ができる。
広場化して、おいしい飲食が買えたり、くつろげる場所にする事を評価する意見が多い。



④ 連尺通りエリア

テーマ
通りはまちの社交場だ!

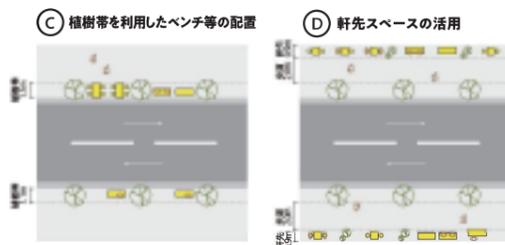
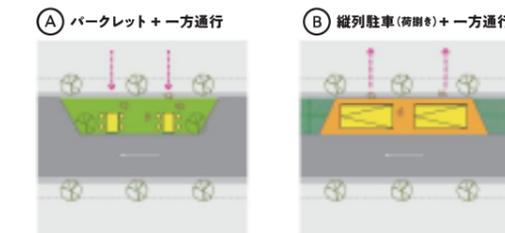
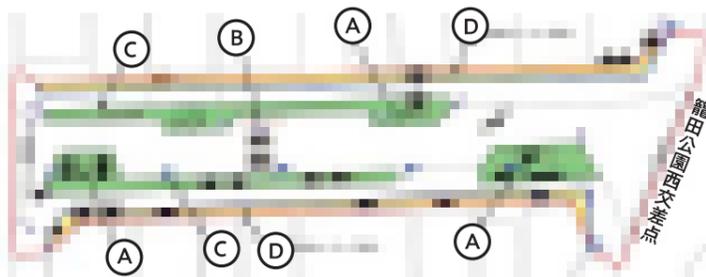
ねらいと結果

回遊や滞留を促す歩行者優先の歩車共存を図るストリートデザインのモデルとして、A.パークレット+一方通行 B.縦列駐車(荷捌き)+一方通行 C.植樹帯を利用したベンチ等の配置 D.軒先スペースの活用の4パターンを表現。今回は車両を通しながらではなく、通行止めにした上で模擬的に検証した。

その結果、道路再構築により「まちに活気が生まれる」「歩いて楽しい」、道路に面した建物の軒先を使うことで「お店に入りやすくなる」という効果が生まれていた。



当日の内容



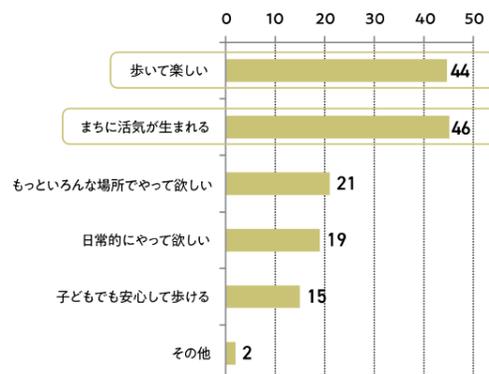
行政による社会実験の場づくり

- 籠田公園北西交差点から連尺通1丁目交差点まで車両通行止めとし、人工芝を敷きつめて歩行者空間化。休憩スペースとしてテーブルや椅子を設置。

民間によるプログラム実施 (5プログラム)

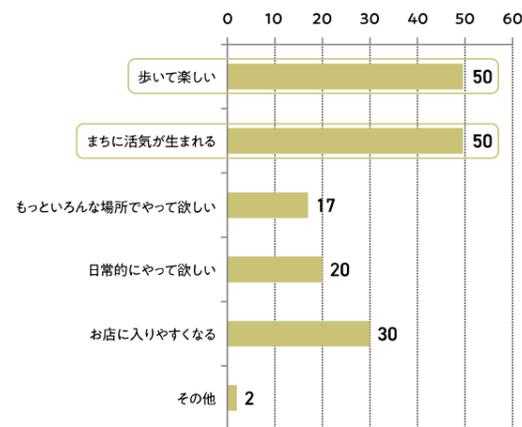
- 個性的な飲食や物販などの出店。沿道商店街による軒先を利用した休憩処や客席の設置と、雨天時における出店者に対する車庫スペースの提供

Q.1 車道を歩行者のための空間として使えるのをどう思いましたか?



「まちに活気が生まれる」と「歩いて楽しい」の2つが群を抜いて多い。「その他」では「住民にとっては難しい問題です(50代男性、自営業)」、「車道は車にとっては必要だし、でも歩行者のことを考える必要もある。(20代男性、学生)」という声が寄せられた。

Q.2 お店と軒先(歩道部分)が一体的に使えるのをどう思いましたか?

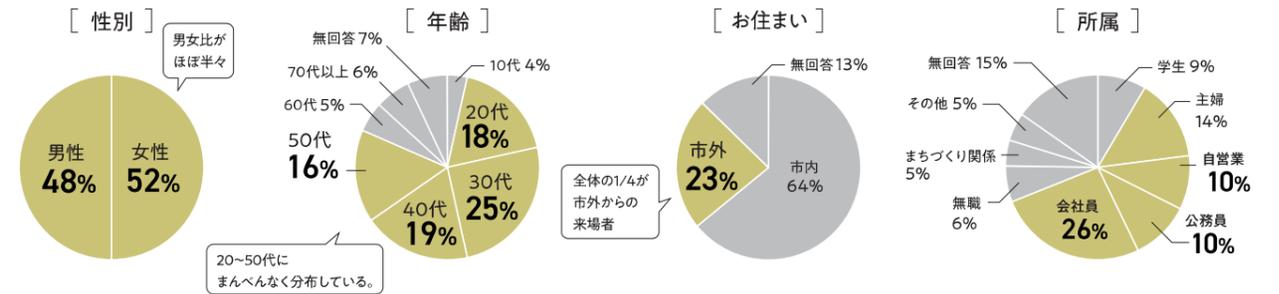


Q.1と同様に「歩いて楽しい」と「まちに活気が生まれる」が突出し、次いで「お店に入りやすくなる」が多い。「その他」では、「イベントとして、週1回、月2回程度が良い。非日常がより楽しさをかもしだす。(50代男性、自営業、市内(八幡町)在住)」、「二七市のように日を決めて(60代女性、市内(祐金町)在住)」という意見が地元の方から挙げられている。

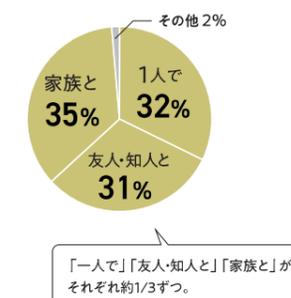
来場者の声

来場者アンケートより
回答者数
228名 / 約3,000

Q.1 社会実験に来場したのはどんな人? 20~50代の幅広い年代の方や、様々な所属の方に来ていただいていることが特徴的

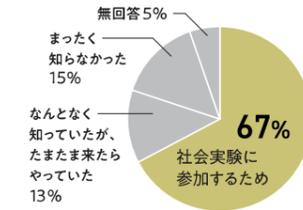


Q.2 誰と来ましたか?



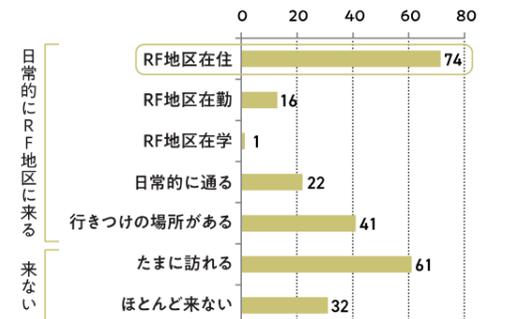
「一人で」「友人・知人と」「家族と」がそれぞれ約1/3ずつ。
家族で来場された方の割合が一番高く友人や家族と一緒に来場される方が多い。

Q.3 本日、社会実験をしていることは知っていましたか?



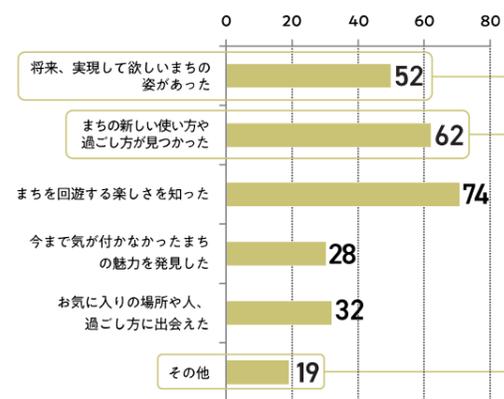
約2/3の方が「社会実験に参加するために来た」と回答。注目度の高さが分かる。

Q.4 RF地区(今回の社会実験の実施エリア周辺)との関係を教えてください。



日常的にRF地区に来る人が多いが、日常的に来ない人も一定数来場した。

Q.5 QURUWAを巡って感じたことを全てお選びください



- りぶらにはよく来るのでりぶらの前ににぎわいがあると子供も楽しいのかな(20代女性、主婦)
- 歩きながら回れる距離に芝生、お店がある(20代女性、会社員)
- 歩行者天国、道路にお店がある(30代女性、まちづくり関係)

- 街をテーマパークの様に楽しめる(30代男性、会社員)
- 市外等に出なくても楽しめそう(30代女性、主婦)
- 晴れていたら外で会議!(30代女性、まちづくり関係)
- 橋で食べ物を買えた(10代女性、学生)
- 河川敷のキャンプ(40代、公務員)

- やっぱり「岡崎大好き」と思った(10代女性、学生)
- りぶらから籠田公園は歩いて行ける距離なんですね(30代女性、主婦)
- 通路や駐車場が芝生でお店があったら来たい(50代女性、会社員)
- りぶらの人々ににじみ出しができるのが疑問(50代男性、自営業)
- まちに関わる本気でがんばっている人たちに会えた(40代男性、公務員)
- 岡崎が目指す街の姿を何となく感じ取れた(20代、会社員)

Q.6 当日印象的だったことや楽しかったこと、感想をご自由にご記入ください。

【新たな魅力を発見】入ったことのない路地にも楽しそうなお店があるんだと気づいた(30代女性、主婦) / ボンネットバスに乗った人が、「こんなにまちの景色みだのはじめていいね〜。」と話していました。(20代女性、自営業) / 工夫すれば、ふつうの川や橋や堤防が素晴らしく、人の笑顔を作れるものになる(10代女性、学生) 【活気を感じた】路上にお店が出るとにぎやかで楽しいです(20代女性、公務員) / 人や物が集まって活気があって良い、晴れたら良かったですね。また来たいです。(30代、会社員) 【周知不足】ステキなイベントなのに周知が足りない(30代男性、公務員) / 一般市民へのPR不足では?地域住民の参加が見られなかった。もっと地域とタイアップした企画が必要だと思う。今後の課題と思いますが、もっと地域住民と一体になった企画となるべ

き。(60代男性、無職) 【回遊性】りぶらから伊賀川伝いに乙川につながるプログラムがあるといい。(30代男性、自営業) / つながると道が短く感じられる(60代男性、会社員) 【りぶら】りぶらの前エリアの活用が魅力的で、これが日常になったらいいな。(20代女性、会社員) / プロムナードのテラスの上に屋根があったら雨の日も日差しの強い日もまちにめぐり出す歩が出るかも。(20代女性、主婦) / りぶら入口付近のバン屋さんには買いやすくて良い。(20代女性、まちづくり関係) / 音楽が外で聴ける、色々な人に出会える(30代男性、自営業) 【人の印象】皆さんとてもフレンドリーだったこと(20代女性、会社員) / 子どもたちが楽しそうだった(30代女性、自営業) / 笑顔があふれていた(40代女性、無職)

①乙川河川敷エリア

テーマ
水辺と暮らす「おとがワンダーランド」

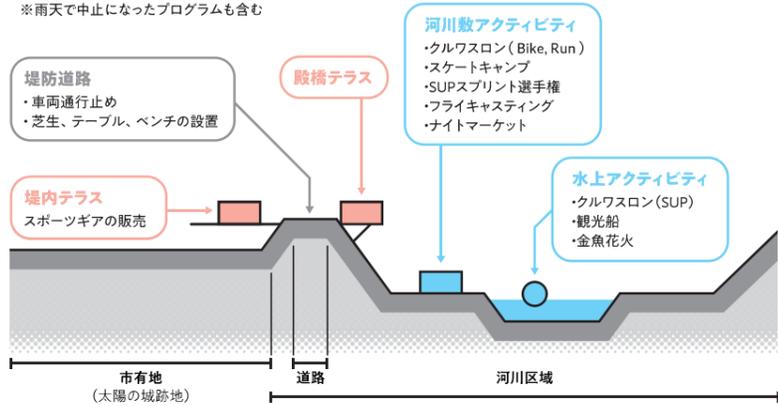
ねらいと結果

堤防道路を歩行者空間化し、かわまちづくり民間事業を実施する河川敷へのアクセシビリティや視認性を高め、河川敷や水面のアクティビティとの一体的利用を図った。
河川と道路、地先の市有地を有効活用するプログラムはまんべんなく支持が得られ、一体的利用の有効性が検証できた。



当日の内容

※雨天で中止になったプログラムも含む



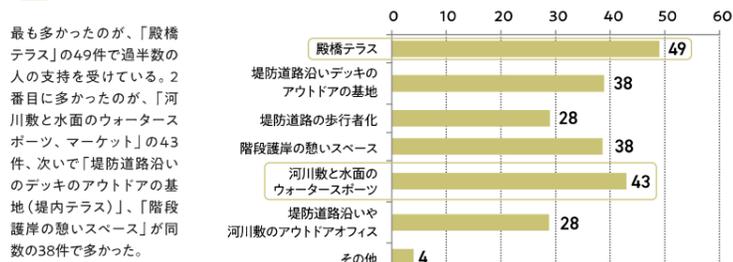
行政による社会実験の場づくり

- 堤防道路を車両通行止めにし、人工芝やテーブル・椅子を設置した休憩スペースや水辺を眺める視点を創出
- 堤防道路に接し、水辺を楽しむ演出として殿橋テラス、太陽の城跡地への堤内テラスを設置

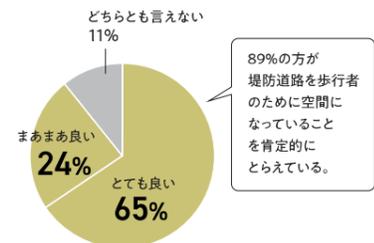
民間によるプログラム実施 (6プログラム)

- 広大な河川敷を生かすアクティビティ(スケートパーク、アウトドアオフィス)
- 水辺のアクティビティを楽しむスポーツギア(スポーツバイク、スタンドアップパドルボード)を扱うお店の出店(堤内テラス)
- 殿橋テラスを利用した飲食店の出店
- テーブル・椅子の用意

Q.1 以下のプログラムでぜひ将来にも実現したいものを全て選んでください【複数回答可】

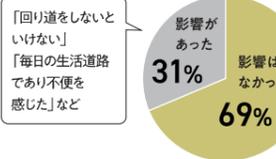


Q.3 堤防道路が歩行者のための空間になっているのどう思いましたか?



乙川に来る人にとっては、堤防道路が河川敷と一体的に利用されている状態を望ましいと考えていると言える。

Q.4 10/28社会実験実施のため車両通行止めになりましたが、生活への影響がありましたか?



堤防道路が歩行者空間化することに対しては、来場者アンケートでは、肯定的な意見が多かったものの、近隣の方のアンケートでは、問題があるとの回答が多かった。

Q.5 この道路を歩行者専用にして、歩行者・自転車が車を気にすることなく安心して通行できるようにした場合、問題があると思いますか?



回答者数：71世帯 / 約260世帯

住民アンケートより

②中央緑道エリア

テーマ (仮称) 岡崎セントラルアベニューの未来をのぞく



ねらいと結果

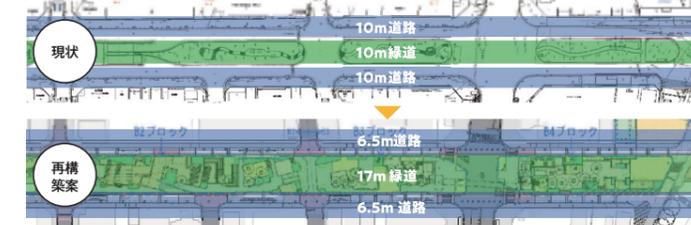
道路再構築の整備では、下図のとおり、道路幅(青)を減らし歩行者を通す緑道幅(緑)を増やすこととしている。このため、沿道関係者の提案により、実際に車道を狭くすることで車の通行への影響について検証した。
アンケートからは、歩行者優先の道路幅が評価されており、整備予定のプランもおおむね支持されていることが読み取れる。

当日の内容

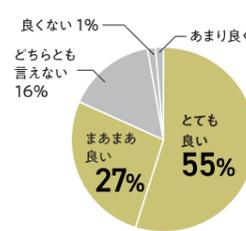
行政による社会実験の場づくり

- カラーコーンを設置して、歩行者空間が拡大された整備後の車道幅を再現

車道と歩道の道路再構築イメージ



Q.1 (仮称) 岡崎セントラルアベニューの模型を見てどう思いましたか?



とても良い理由(抜粋)

人がつらげる所がたくさんある(30代女性、会社員) / 広くて緑が多く、ゆったり過ごせそうと思ったから。(20代女性、会社員) / 残すところ(杉の木)、元々の地形を再現されていたり、「新」の中に「旧」も生かされているところ(20代女性、会社員) / 新しいまちの形が見えた感じがする(30代男性、会社員) / 人が集まりやすい(50代男性、会社員) / 子どもの遊び場が良かった。(10代男性、学生)

まあまあ良い理由

国1をどう渡すか(60代男性、会社員)
町に特別なものがある感じがいい(60代女性)

どちらとも言えない理由

国道1号線による分断はもっと良い解決がないか(40代、会社員)
メンテナンス、利用度、長期で費用をかける価値があるのか(30代女性、主婦)

あまりよくない理由

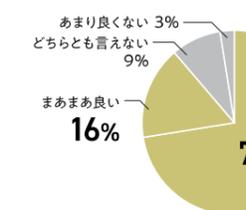
どこから来てどこへ行くのか?(30代)

よくない理由

狭くなった(40代女性、自営業)

歩行者を優先した計画を肯定的にとらえる意見が多く寄せられた一方で、現状歩いている人をあまり見ないと心配する声もあった。

Q.2 歩行者を優先した計画についてどう思いますか?



(仮称) 岡崎セントラルアベニューの計画に対して大半の方が肯定的な回答をしている。日常的につらげる場所ができることを喜ぶ回答が多かった。

③籠田公園エリア

テーマ
暮らしを彩る公園日和



ねらいと結果

詳細設計が進められている籠田公園において、整備後の活用イメージづくりと将来実際に活用する意向を持つ事業者による活用法の検証を行った。
当日は、非日常的にぎわいというより、日常生活の質を高める使い方が提示され、雨天にもかかわらず来場者が多く、滞留時間も比較的長く、多くの人に受け入れられていたといえる。

当日の内容

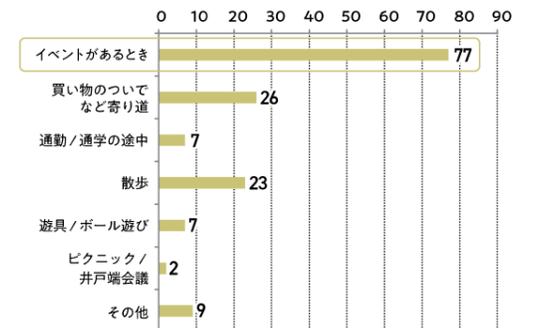
行政による社会実験の場づくり

- 雨除け用のテント、休憩スペースとして、椅子とテーブルの設置

民間によるプログラム実施 (6プログラム)

- こだわりの食材や日用品のマルシェの開催やDIYの体験プログラム(店用のテントやテーブルも用意)、プランターを使った都市型菜園など
- 未来の籠田公園・中央緑道の模型を展示など

Q.1 どういう時に籠田公園に来ますか?



イベント時の利用という回答が大半を占めており、日常的な利用が少ないということが読み取れる。

Q.2 日常的にあると良いと思うものはありましたか?(抜粋)

- バザー [理由: 賑わいができる] (50代男性、会社員)
- マルシェ、ビザ、ビール [理由: 楽しい!!] (30代女性、自営業)
- 食べ物屋さん [理由: 遊びついでに食事できると来ようと思うことが増えそう] (30代女性、主婦)
- 屋根付きの椅子、机 [理由: 雨上がりに利用しやすい] (30代女性、主婦)
- ワークショップ [理由: ふらっと来て、さくっと体験できるところが魅力的] (20代女性、会社員)